



感情清掃局発行

地域安全マニュアル

～安全な暮らしのために、いま知っておくべきこと～

はじめに

本冊子は、現在日本において発生が確認されている感情暴発およびそれに伴う汚染への対応を目的として、感情清掃局が市民の皆様に向けて作成したものです。異常現象を未然に防ぎ被害を最小限に留めるため、本書の内容をご理解いただくと共に、万が一の際には迅速かつ冷静な対応をお願いいたします。

発行：感情清掃局

担当：市民広報対策部・各地域支部窓口

目次

1. 世界の現状について
2. 警察および感情清掃局の役割について
3. 市民の皆様へのお願い

1. 世界の現状について

現在、我々が暮らす日本各地では、極端な感情の高ぶりによる「感情暴発」と呼ばれる現象が確認されています。これは主に人間の持つ精神性エネルギーの暴走現象であり、その発生地点を中心に「感情因子」による物質的汚染が広がることが確認されています。

感情暴発とは…

人間の感情が極度に昂った際に、精神性エネルギーが物質化し、突発的な変質現象を引き起こす現象です。これにより、周囲の空間・物質に対して「感情汚染」と呼ばれる有害な影響が発生します。

暴発時の感情因子の形態：

- 気体状（霧・煙のような感情粒子）
- 液体状（水・粘液のような感情性流体）
- 固体状（鉱物のような感情性結晶）

感情汚染による人体への影響：

感情因子の皮膚接触や吸入などにより、二次感染が発生します。

感情汚染による土壌への影響：

感情因子は地面に付着し土壌に侵食的影響を与えます。自然回復が困難になる場合もあります。

廃人化とは…

被汚染者は、重度の精神感染を経て、「廃人」と呼ばれる状態に至ることがあります。

廃人の特徴：

- 自我・人格の完全喪失
- 感情的衝動のみに従った行動
- 高い攻撃性または過剰な喜怒哀楽の発露

△ 重要！：

被汚染者を発見した際にはすぐに距離をとり、ただちに通報をお願いします。
外見や身体機能に変化はなくとも、非常に凶暴で危険な状態です。
対話・説得の試みは絶対に行わないでください。

2. 警察および清情局の役割について

日本における「感情暴発」とそれに伴う汚染への対処は、二つの国家組織によって分担されています。いずれも地域社会の安全確保を目的としていますが、担当領域・専門性・現場での行動基準は明確に区別されています。以下では、市民の皆様が現場を目撃された際に混乱せず状況を理解できるよう、それぞれの組織の役割と対応手順を詳しく説明します。

警察（都道府県警察）

警察は、従来の治安維持および犯罪捜査とともに、暴発・汚染現象への一次対応を担当します。

実際の現場では、以下のような行動が主に警察の管轄です。

- 付近の一般市民への避難誘導、交通封鎖、車両の迂回案内などの隔離措置。
- 感情清掃局職員が現場に到着するまでの間の、暴発者・廃人の行動監視と危険評価。
- 重犯罪に該当する事件の共同捜査。

感情清情局

感情清掃局は、感情暴発現象の発見・解析・処置・汚染区域の清掃を行います。各地域支部（東北支部、関東支部、中部支部など）は担当地域を統括する支部長のもとで管理され、現場対応部門、研究部門、危険物処理部門など複数の専門班からなります。

主な業務は以下の通りです。

- 暴発現象の専門的な鎮静化・封じ込め。
- 感情因子により変質した汚染土壌・建造物の除染作業。
- 廃人化個体の鎮静化。必要に応じて拘束、收容施設への移送、または殺処分。
- 感情暴発に関連する様々な要因の長期監視・分析研究。

両組織の連携体制

現場では「警察が安全を確保し、感情清掃局が感情爆発の関連処置を行う」という二層構造が基本です。発生規模が大きい場合、両者の合同指揮所が設置され、交通規制・避難区画指定・封鎖線の変更・廃人化個体の動向などが随時共有されます。

感情暴発の現場に遭遇した際は、必ず現場職員の指示に従って行動してください。

3. 市民の皆様へのお願い

市民の皆様が安全に暮らしていただくためには、行政組織の対応だけでなく、日常生活における「早期発見」と「正しい行動」が不可欠です。暴発現象や汚染は突発的で予測が難しいため、以下の内容を把握しておく、万が一の際に身を守る助けになります。

① 不自然な気配や現象を見かけた場合

感情因子は、人によって見え方や感じ方が大きく異なるものの、多くの場合以下のような違和感として知覚されます。

- 空気の重さ・むせるような圧迫感
- 同じ場所に留まる有色または無色の「揺らぎ」
- 匂いのない甘い・苦い刺激
- 土壌や壁の変色、濡れているような質感
- 触れても温度を感じない塊、膜状のもの

このような現象を認識した際は、決して近づかず、その場から速やかに離れてください。

② 暴発者・廃人と思われる人物を見かけた場合

暴発者や廃人は、多くの場合、次のような特徴が認められます。

- 通常の人間に見られない気体・液体・固体状の物質が人物の周囲に見られる。
- 感情が極端に偏り、同じ動作・言葉を繰り返す。
- 周囲との会話や注意の呼びかけに反応しない、または整合性のない行動をとる。
- 笑い声・嗚咽・怒号など単一感情に基づく行動をとる。

これらを目撃したら絶対に近づかず、警察または清情局への通報をお願いします。

③ 通報の手順

1. 現場から最低でも数十メートル離れて安全を確保する。
2. 110 番または地域清情局ホットラインへ連絡。
3. 「場所」「状況」「人数」「汚染の有無」「危険が迫っているか」をできる限り簡潔に伝える。
4. オペレーターの指示に従い、待避・移動を行う。

通報後の現場への引き返しは絶対に行わないでください。

④ 汚染区域の立ち入り禁止について

清掃作業や調査が行われている区域は、外見上は安全に見える場合でも、残留した低濃度の感情物質が体内に蓄積し、精神状態に影響を及ぼす可能性があります。

封鎖線・警報機・立て看板が設置されている場所への立ち入りは法令で禁じられています。生活動線上で不便がある場合でも、迂回路の利用にご協力ください。

⑤ 日常的な心の健康管理

感情暴発は誰にでも起こりうる現象です。

日頃から心身のバランスを保つために、以下のような行動が推奨されています。

- 過度なストレスを溜め込まない
- 感情の昂りを感じたら一人にならず、周囲に相談する
- 長期間気分が不安定なときは医療機関へ
- 重大な喪失や衝撃を受けた際は専門窓口へ連絡する

個人の小さな配慮が、地域全体の安全を守る大きな力につながります。

さいごに

感情暴発とそれに伴う精神汚染は、予兆が見えにくく、時に大きな被害をもたらす危険な現象です。しかし、日々の心のケアや周囲との適切な関わりによって、その多くは未然に防ぐことができます。不安を抱え込み過ぎず、正しい知識を身につけ、ご自身と大切な人を守るためにも、ぜひ本冊子の内容を日常にお役立てください。

各地域支部では、心のセルフチェックの方法や身近なストレス対策を学べる講習会、市民向けの相談窓口、学校・自治会・企業向け出張講座などを随時実施しています。

ご利用を希望される場合やより詳しい情報を知りたい方は、お近くの感情清掃局地域支部窓口へお気軽にお問い合わせください。

感情清掃局発行 地域安全マニュアル

- 発行・制作：感情清掃局 市民広報対策部／各地域支部窓口
- 内容監修：感情清掃局 関東支部 感情研究部門
- 協力：全国感情清掃局各支部連絡会・地域防災対策課
- 編集協力：感情清掃局教育啓発班
- 本冊子に関するお問い合わせ：感情清掃局 各地域支部窓口（代表）

※ 本冊子の内容は、感情災害対策に関する最新の知見に基づき作成されています。
記載情報は予告なく更新される場合があります。